

田上 時子のエッセイ

増やそう日本の女性議員

今年選挙の年である。4月に統一地方選挙、7月に参議院選挙が控えている。

世界の人口比が男女半々の割には世界中で女性議員がきわめて少ないが、日本はさらに少ない。スイスの「世界経済フォーラム」の2018年版「男女格差報告」によると、日本は調査対象となった149カ国のうち、政治分野は125位と最低レベルで、海外と比べ日本は政治分野で女性進出が遅れているとされる。

地方議員もほぼ国政なみだが、地方議会のうち約20%近くが女性議員のいない「女性ゼロ議会」になっている。女性議員を増やし多様な声を政治の場に届けようと、2018年には「政治分野の男女共同参画推進法」が成立し、各政党に男女均等の候補者擁立を促している。これを受けて、自民党は「党の女性議員のいない県議会の解消の努力する」と訴え、立憲民主党は女性候補者を40%以上、国民民主党は30%以上を掲げるなど、4月の統一地方選挙で女性候補の増加に意欲を示すが、擁立は進んでいない。

そもそも女性議員はなぜ少ないのか？ 女性議員が少ないと、どんなことが起きるのか？ 女性議員が増えると、政治にどんな変化が起きるのか？ を三浦まり編著『日本の女性議員どうすれば増えるのか』（2016年 朝日新聞出版社）を読みながら考えた。

女性議員はなぜ少ないのか—日本は性別役割分業意識が強固な国であり、政治の世界は男性の

仕事とする社会の意識やジェンダー・ステレオタイプが女性には足かせになっている。また政治資金も経済的格差がある女性の方が調達しにくいなどのハードルがある。

女性議員が少ないと、どんなことが起きるのか—なぜ保育園に入れないのか、なぜ少子化なのか、なぜDVやセクハラのように女性への暴力が減らないのか、なぜ働く女性の多くは非正規なのか、なぜ選択性夫婦別姓は実現しないのか、こうした問題が解決するには法律を作り意思決定の場である政治の世界に女性が増えることが必須である。

女性議員が増えると、政治にどんな変化が起きるのか—女性議員が増えることで、男性支配的な政治文化を温存し、女性蔑視や性差別の再生産をする仕組みを阻止することが可能になる。結果的に、世話をする従来女性役割とされた仕事（看護師、保育士など）の価値が重視され、女性に対する暴力防止にもなる。またジェンダーの課題は男性側にもあり、過労死、ホームレスなどの男性問題の解決にもなる。

そして何より、男性優位な構造を変えることにコミットメントする女性たちが増えるのは、より平和で平等で少数派や弱者に優しい社会作りに貢献すると大いに期待している。

